

情報科におけるポスター制作の授業

聖母被昇天学院中学校高等学校 情報科社会科教諭

岡本 弘之

okamoto@assumption.ed.jp

1. はじめに

情報科がスタートして10年が過ぎ、この4月からは科目が「社会と情報」、「情報の科学」に再編される。私もそうであるが、4月からの授業ネタをどうしようと考えている先生方も多いのではないだろうか。

今回原稿執筆の機会をいただき、来年度の「社会と情報」の教科書¹⁾と自分の実践を見返して、毎年授業実践してきた「ポスター制作」の授業を紹介することとした。

勤務校のカリキュラムを紹介すると、高校1年生で情報A(2単位)必修、高校2年生で情報C(2単位)選択で展開しており、「ポスター制作」はこのうち2年生の情報Cの実習として行ってきた。

この情報Cでは、「伝えること＝コミュニケーション」を軸に置いた実習中心の授業で構成しており、1年間の実習を並べると、

- ・ポスター制作＝短い文字と画像で伝える
- ・インタビュー記事＝聞いた内容を文字で伝える
- ・情報モラル標語＝標語でメッセージを伝える
- ・CM作成＝画像・音楽・文字で伝える
- ・問題解決実習＝提案をプレゼンテーションで伝える
- ・学校紹介づくり＝動画で伝える

といったように「伝える」ことにこだわり、かつ授業が進むにつれ、表現手段を「文字 → 画像 → 音楽 → プレゼンテーション → 動画」と広げていっている。

このような中での「ポスター制作」の実習は、当然「伝える」ことにこだわった「情報科らしさ」を意識したポスター制作の実習となっている。

本稿ではこの授業実践を取り上げ、これから「社会と情報」の実習授業を考える際の、一つの実践事例として紹介したい。

2. 授業の実践

授業実践は高校2年生の情報C(2単位)の1学期後半の課題として7時間を使って実施した。

2.1 授業の概要

授業は「メッセージを伝えるポスター制作」を制作課題として示し、条件として、複数の写真と短いキャッチコピーを組み合わせて、何らかのメッセージを伝えるポスターを制作することとした。

2.2 授業のねらい

本授業のねらいとしては、次の点である。

- ① メッセージをポスターという表現方法で伝える
- ② 画像編集ソフト・操作の基本的な理解をさせる

①について、この授業で生徒につけたい力は、ポスターという表現手段を使って、自分の「メッセージ＝伝えたいこと」を伝えることのできる力である。

ポスターという表現方法で使えるのは、画像と短いキャッチコピーであり、この特性を理解し、効果的に伝えるために工夫しながら制作を行う。

ポスター制作の実習の評価となると、見た目のきれいさ＝デザイン性を中心となるが、情報科で行う以上、「見た人に情報が伝わるか」という視点を重視したい。このことは企画の段階・評価の段階で繰り返し話し、情報科らしい実習となるよう意識させている。

②の操作スキルは、①を実現するための方法として位置付けている。操作スキル獲得が目的ではなく、自分の思いを表現する手段として操作スキルを学ばせるのである。勤務校では「Photoshop Elements」といった本格的な画像編集ソフトを用い、生徒のイメージがより表現しやすいようにしている。

2.3 授業の展開

授業の展開・配当時間は以下のとおりである。

① 研究する(宿題)

ポスター制作の前に、まずは街にあふれているポスターを研究させることから始めている。研究シートを渡し、町や駅などにあるポスターを一つ選び、簡単な構図のスケッチ、ターゲット・ねらいの分析を行い、提出させる。


研究シート	
観察した日時場所	月 日 () : (場所)
ポスターの内容	
作成者・団体	
ポスターのねらい 見た人に何を伝える?	
ターゲット 誰に訴えるのか?	
キャッチコピー	
イメージスケッチ 簡単な構図をメモ	
工夫している点	

図1 研究シート

ゼロから自分で考えるのではなく、プロが作った作品を分析させ、普段何気なく見ているポスターからターゲットや伝えようとしているメッセージを分析することで、ポスターという表現手法の工夫や特徴を学ばせるのである。

私の授業では、その他の実習(インタビュー・CM制作)でも同様の「研究」をまずさせてから制作にかからせるようにしている。

② 企画書の記入(0.5時間)

いきなり制作にかかるのではなく、必ず紙ベースの企画書を作るところからスタートさせている。ここではターゲット・コンセプト・絵コンテを記入させ、大まかなイメージを考えさせた上で、コンピュータを触らせるようにしている。

これは社会で何か制作するときの流れに近いことを体験させることと、企画書を提出させずに制作にかかるといつまでも企画が定まらず無駄に時間を過ごすことを予防することを目的としている。

企画書の書き方

- ・ 作品名
 - 作品のタイトル
- ・ ねらい
 - ポスターを見た人に何を伝えたいか? (内容)
 - 誰を想定してのポスターか? (ターゲット)
 - どのような方法・画像で伝えるか? (方法)
- ・ イメージ
 - 簡単な絵コンテを記入




図2 企画書の書き方説明スライド

③ ソフトの操作説明(0.5時間)

イメージができたところで、画像編集ソフトの簡単な操作の説明である。前述のように勤務校では「Photoshop Elements」を使っているが、詳細な操作の説明は行わず、ごく基本的な「切り抜く、貼り付ける、文字を入力する、画像を編集する」といった操作のみを20分程度で教え、詳細は操作方法を記したプリントを配布する。

ソフトの操作はあくまでも手段であり、実習を進める中で自然と習得すればよいと考えている。

④ 画像収集(1時間)

今回の実習では画像編集のスキルも身につけてほしいので、複数枚の画像を使うことを条件としている。その画像であるが、著作権のこともあり、インターネット上の著作権フリー画像や自分で撮影した画像を使うよう指導している。インターネット上にはこういったフリー画像が多くあり、またサイズの的にも大きな画像が多く、編集・加工する上でも非常に便利である。またこういった方法を教えておくことは、将来自分で作る必要ができたときに役立つ。

まだ学年の最初の方の実習なので「今日は画像を集める時間」と細かな行程に区切って進めることで、生徒が制作を進める上での時間管理を行っている。

⑤ 画像編集(2時間)

画像編集と書いたが、基本は以下の操作ができれば、十分なポスターができる。

- ・ 画像を切り抜き、貼り付けること
- ・ 画像の背景など不要な部分を消去すること
- ・ 画像の重なり方(順序)を変更できること
- ・ 文字を入れ、色・フォントを変えること
- ・ 背景色を変えること
- ・ 画像の濃度を変えること

今回は「Photoshop Elements」を使ったが、この程度のことであれば、Windowsの付属ソフトやPowerPointの編集機能でもある程度はできる。

これ以上の機能については、巡回しながら質問があれば全体に追加説明をする形で対応している。

⑥ 画像仕上げ・印刷(1時間)

画像編集とは別に「仕上げ」の時間をとっている。

完成したように思う作品であっても、重なり方の順序を変えたり、配色・大きさを変えたり、文字のフォント・色を変えるだけでもデザイン的な印象は大きく異なることに気付かせたいからである。自分の作った作品を操作し、何パターンか作品を比較しながら、これらについて学ぶのである。

またここで隣同士、友人同士で見せあいコメントを言い合うことも行わせている。その時の視点は「何が言いたいかわかる?」というメッセージが伝わるかどうかである。生徒は画像にこだわりがちであるが、メッセージを伝えるには文字の影響が大きい。自分が書いた短いコピーが、伝えたいメッセージを表わしているかをここで確認して修正する。

⑦ 相互評価(1時間)

完成した作品をA4サイズでカラー印刷し、順番に作品を回しながら相互評価を行う。

相互評価の観点は以下の3点であり、良い点・改善点について必ずコメントも記入する。

- ・ 内容＝加工など工夫・手間をかけたかどうか
- ・ デザイン＝画像の選択・配色など見た目
- ・ 企画＝メッセージが伝わったかどうか?

全員がお互いに評価することで、自分の作品を客観的に見つめ、評価する力も育てたい。

教員評価も同時に同じ観点で評価をする。同時に評価をすることで改めて評価を行う時間を節約し、

その場で適切なアドバイスをを行うためである。

その後自己評価プリントを記入させる。時間配分などABCで自己評価し感想を書かせ、また他の人の作品を見て、「情報が伝わるポスターとは何か」について考察させ、分析を書かせている。他の作品から学ばせるのである。

3. 結果

3.1 生徒の作品

それぞれに工夫を凝らした作品が多かったが、相互評価で評価が高かった作品の一つを紹介する。



図3 生徒のポスターの作品例1
(2012年度高校2年生の作品)

コンセプトは、「日本の魅力を伝えたい、日本を再発見してほしい」ということでした。画像の選択や加工も見事であるが、「日本らしさ」という統一性が、キャッチコピーと一致して、強いメッセージを伝えるポスターに仕上がっている。

3.2 授業の評価

この制作の授業の評価は、次のワークシート・作

品で行った。

- ① 研究シートの記入
 - ・ 項目ごとに ABC の評価
- ② 企画書の記入
 - ・ 項目ごとに ABC の評価
- ③ 作品の相互評価・教員評価
 - ・ 項目ごとに SABC の 4 段階評価
- ④ アピール・自己評価・考察の記入
 - ・ 項目ごとに ABC の評価

作品の完成度だけで大きく評価するのではなく、制作途中の各段階でワークシートを提出させ、それらの小さな項目ごとに評価をつけることを積み重ねて、一つの実習の評価点を算出している。

4. 考察

授業のねらいについて、研究からはじまる制作の一連のプロセスにおいて、生徒は「ポスター」という表現方法の特性を理解し、その特性をふまえ、自分のメッセージを伝えるために、どのような画像を集め、どのような色遣い・構図とし、何を文字として書くかを、十分意識して制作を行うことができた。

また制作の過程で、プリントを見たり、友人に質問をしながら、自分の表現を行うための方法として画像編集ソフトの操作スキルを獲得していった。



図 4 生徒のポスターの作品例 2

5. まとめ

今回の実践を振り返り、情報科において「ポスター制作」を行う際のポイントについて、まとめておきたい。

① きれいなポスターでなく

伝わるポスターを作らせる

この実習で繰り返し伝えたのは「きれいなポスターを作るだけでなく、メッセージを伝えるポスターを作りなさい」ということである。画像の加工・編集はおもしろく、生徒もつい画像に凝ってしまいがちである。もちろんきれいなデザインであることは一つの評価ポイントであるが、情報科で作るポスターは「きれいだけ何の言いたいかわからない」というものでは、十分でない。「伝える・伝わる＝コミュニケーション」の視点を、十分意識させたい。

② 実習の中で教科書の知識を学ばせる

今回「ポスター制作」という実習を軸にした授業を展開したが、この実習の中で組み込める教科書の内容はいくつもある。

「メッセージを伝えるポスター」の制作は「情報の表現と伝達」の実習であり、「情報伝達のメディアの特質」、「情報発信時の注意点」、「表現の工夫」の内容は、そのまま実習の中で体験的に学ばせることができる。

また、画像収集の段階では「著作権」、「肖像権」といった情報社会に関わる法律について、ポスター制作の段階では、「文字フォント」の違い、画像の編集・保存の段階で「画像のデジタル表現」の内容、保存する段階で「静止画像の圧縮形式」などの知識を説明することで、これらの内容も学ばせることができる。

今回の学習指導要領の改訂で、従来「情報 A は 1/2 以上」、「情報 B・C は 1/3 以上」とされた実習の時間の制限がなくなった。²⁾しかし情報科で座学ばかりやってはもったいない。これまで通り実習をやりながら、その中で教科書に載っている知識を学ばせる工夫をしたい。

今回の実践が皆様の授業づくりの参考になれば幸いである。最後に本実践を含め、筆者の実践はスライド・プリントを含め下記の Web で公開している。

情報科の授業アイデア <http://www.okamon.jp>

参考文献

- 1) 坂村健ほか『高等学校 社会と情報』数研出版、2013 年
- 2) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂、2010 年